

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立勸興小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

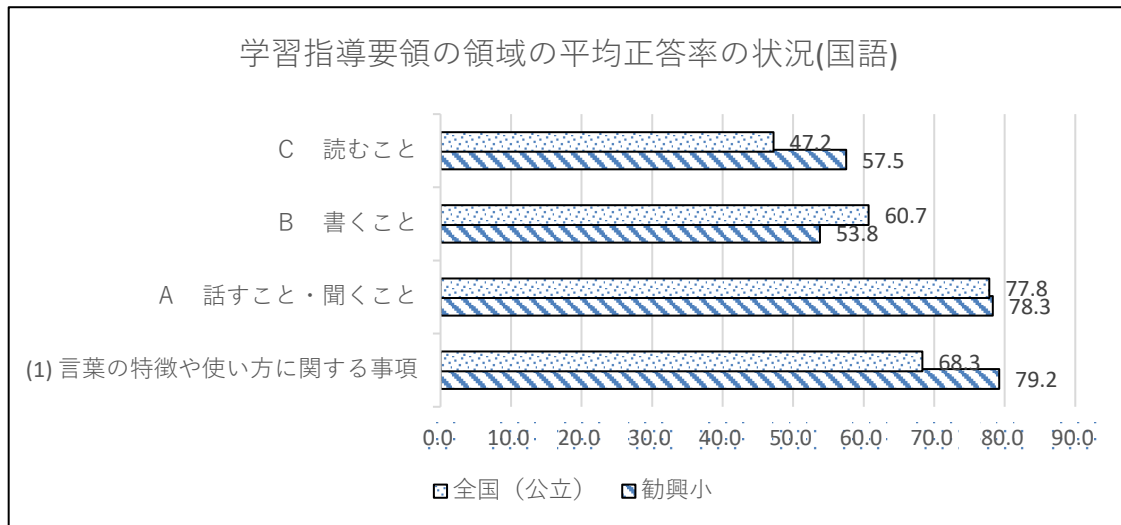
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域のうち「書くこと」以外は、全国平均正答率を上回った。本校児童の分布の割合を見ると、中央値が全国平均よりも高く、全国平均を上回っている児童が多いことがわかる。下位児童の割合は少ないが、ばらつきが見られ、二極化まではいかないものの、注意が必要である。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」に課題が見られた。自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、全国平均を下回った。特に、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、無解答が全国平均を上回っていた。また、記述式の問題で、目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題や、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率では全国よりも上回っているものの、正答率自体はそこまで高くない。記述式の問題であることから、「読むこと」の力に加えて、課題となっている「書くこと」の力がつけば、さらに正答率は上がるものと考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

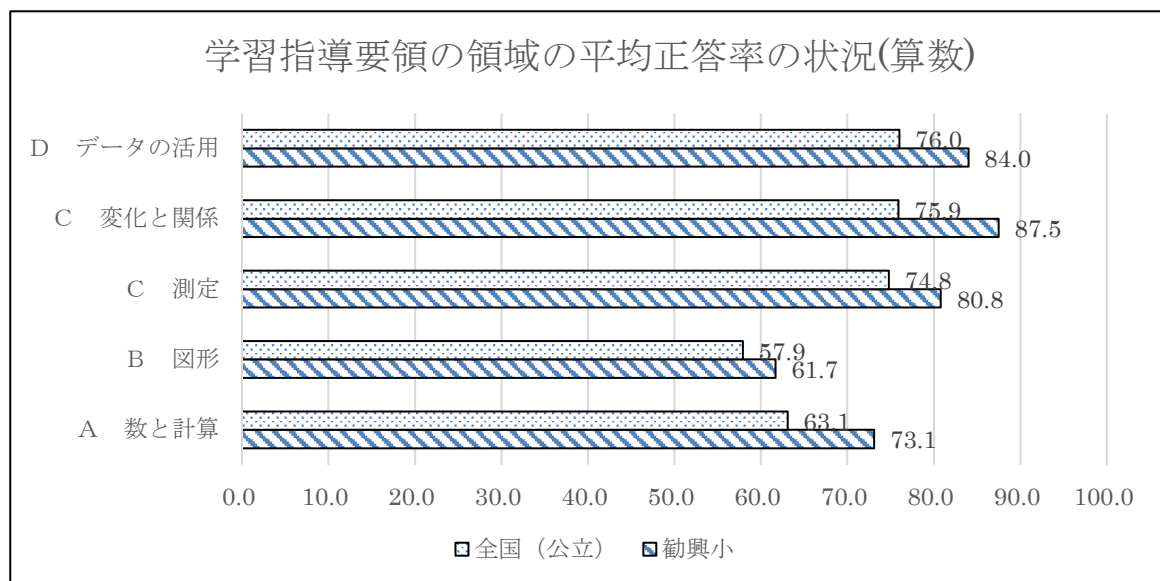
【学校では】

- 授業の中で、視写の時間を設定し、目的に応じたモデル文を書く練習に取り組みます。
- 目的や意図に応じて自分の考えの根拠を明らかにし、言語を正しく使って書く工夫をします。
(制限された字数で考えをまとめる活動等)
- 具体的思考操作（考える活動）を通して学習活動（言語活動）を実践することで、育てたい資質・能力を育成する学習（3フレーズで創る学習課題）に全学年で取り組みます。

【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。テレビや新聞等の情報を家族で共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。また、自学ノートに考えを書くことも進めます。
- 毎日の日記を書く活動では、テーマや字数制限を与え、自分の思いや考えを表現する活動を取り入れます。ご家庭でも、テーマについて話題にしてみましょう。

2 算数



(1) 結果

5領域のうちすべて全国平均を上回った。本校児童の分布の割合を見ると、中央値が全国平均よりも高く、全国平均を上回っている児童が多いことがわかる。下位児童の割合も少なく、全体的に、全国平均を上回っている。

(2) 成果と課題

正答率は全国平均を上回っているが、正答率そのものが低いものが「図形」領域になる。三角形の面積の求め方や、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する問題等、面積を求める問題が、正答率が低かった。また、商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表すことや、小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値に適用して、基準量を1としたときに比較量を表すことなどの数量関係の問題についても全国平均は上回っているが正答率は低かった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 自分だけが分かるのではなく、誰でも分かる説明になるように集団で考えを完成させていく活動を繰り返すことで多面的・多角的な見方や論理的思考を高めます。
- 具体物を使ったり、タブレットを活用して図形を操作したりするなどして、視覚的な情報を取り入れ、図形領域の知識・技能や思考・判断・表現能力を高めます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし数えでかけ算」「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	95.2	85.8
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。(どちらかといえども含む)	95.2	81.2
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。(どちらかといえども含む)	95.3	90.4
自分には、よいところがあると思いますか。	42.9	36.2
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	21.4	24.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.0	75.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	92.9	84.1
学校に行くのは楽しいと思いますか。	57.1	47.9

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできている。挑戦心や規範意識についても肯定的な回答をし、全国平均を上回る結果が出た。学級で協力して取り組もうとする意識が高い。ただし、挑戦心については、「どちらかといえば当てはまる」が非常に多く、挑戦しようとする気持ちはあるものの、慎重に行動する傾向があることも伺える。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。		
「よくしている」	38.1	31.2
「ときどきしている」	47.6	42.8
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。		
「3時間以上」 (塾等の時間も含む)	9.5	11.6
「2時間以上、3時間より少ない」	11.9	15.3
「1時間以上、2時間より少ない」	45.2	35.6
「30分以上、1時間より少ない」	26.2	24.5
「30分より少ない」	4.8	9.5
「全くしない」	2.4	3.5

家庭学習については全国平均とほぼ同等となっている。「1時間以上、2時間より少ない」が最も多く、全体的に何らかの学習の時間をとっている傾向がみられる。また、自分で計画的に学習に取り組んでいる割合も「ときどきしている」を含むと、ほとんどができていくことがわかる。家庭での学習の習慣が身についた児童が多く、これからも継続していけるように支援したい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 子どもたちの基本的な生活習慣の目標を具体的に提示して、年間を通して取り組んでいます。
- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても全学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示することで意識化を図ります。
- 「家庭学習頑張り週間」を設けて、生活習慣の定着を図ります。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習の定着をこれからも継続し努めましょう。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まると思います。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間の目安や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましましょう。